

# 奈良県議会会派 自由民主党・無所属の会

2026  
会派号

あしたか  
REPORT17



# あしたか 清友



香芝市民の皆様には、日頃より、奈良県議会への温かいご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

地元・香芝市選挙区から奈良県議会へ送り出していただき、早2年9ヶ月が経過しました。私は、自由民主党・無所属の会に所属し、先輩議員や同期の仲間と力を合わせて、香芝市民の付託に応えるべく、県政の課題解決に向けて取り組んでいます。

新しい年も日々研鑽を積み、仲間とともに働いてまいります。

奈良県議会議員 あしたか清友



▲予算委員会にて山下知事と激しく論戦



▲高市早苗内閣総理大臣誕生(総裁選直前)

あしたか清友・二上事務所  
香芝市畑四丁目103番地

TEL 090-5065-8281 URL <https://ashitaka-kiyotomo.com/>

あしたか清友・五位堂事務所  
香芝市瓦口32-3-101

ニュース番組や  
情報番組等で  
取り上げられています  
対談はこちらから



## 自由民主党・無所属の会からの提言！ ～議員定数見直しへ～

「議員が多すぎるのではないか」という声や、「地域の実情も踏まえて考えるべきだ」との意見も寄せられています。奈良県全体で見れば、地域ごとの実情や課題は大きく異なります。

私たち「自由民主党・無所属の会」は、こうした多様な県民の声を出発点に、議論を深めることこそが必要だと考えました。

そのため、9月に「定数および選挙区等検討委員会」の設置を他会派に呼びかけ、主導しました。

人口減少や都市部への集中が進む今、令和9年春の奈良県議会議員選挙を見据え、来年春に行われる国勢調査の結果を待つだけでなく、議会自らが“どうあるべきか”を議論することが不可欠です。

呼びかけから一か月後の10月24日、委員会が正式に設置されました。

### 奈良県議会議員選挙の選挙区 令和7年10月1日現在(出典:奈良県)



選挙区	定数	当該選挙区に含まれる市町村	人口合計	1議席あたり
奈良市・山辺郡	11	奈良市、山添村	347,991	31,635
大和高田市	2	大和高田市	59,165	29,583
大和郡山市	3	大和郡山市	79,980	26,660
天理市	2	天理市	59,979	29,990
橿原市・高市郡	4	橿原市、高取町、明日香村	128,470	32,118
桜井市	2	桜井市	52,447	26,224
五條市	1	五條市	24,849	24,849
御所市	1	御所市	21,686	21,686
生駒市	4	生駒市	113,968	28,492
香芝市	2	香芝市	76,877	38,439
葛城市	1	葛城市	37,067	37,067
宇陀市・宇陀郡	1	宇陀市、曾爾村、御杖村	27,401	27,401
生駒郡	2	平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町	74,044	37,022
磯城郡	2	川西町、三宅町、田原本町	44,228	22,114
北葛城郡	3	上牧町、王寺町、広陵町、河合町	93,764	31,255
吉野郡	2	吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村、野迫川村、十津川村、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村	32,280	16,140

この場では、単なる定数削減ではなく、面積や地域性を踏まえた「一票の格差」の在り方を含め、奈良の実情に即した制度設計をどう進めるか。

効率性と代表性の両立という難題に向き合いながら、私たちは県民の視点に立った冷静で開かれた議論を進めていきます。



# 公立高校を、置き去りにしない ～「無償化」の陰で、教育のバランスを崩させない～

私立高校の授業料無償化。

家庭の経済状況などに左右されず進学できるという点で、「教育の機会の公平化」に向けた重要な一歩です。私たちもこの方針を支持しています。

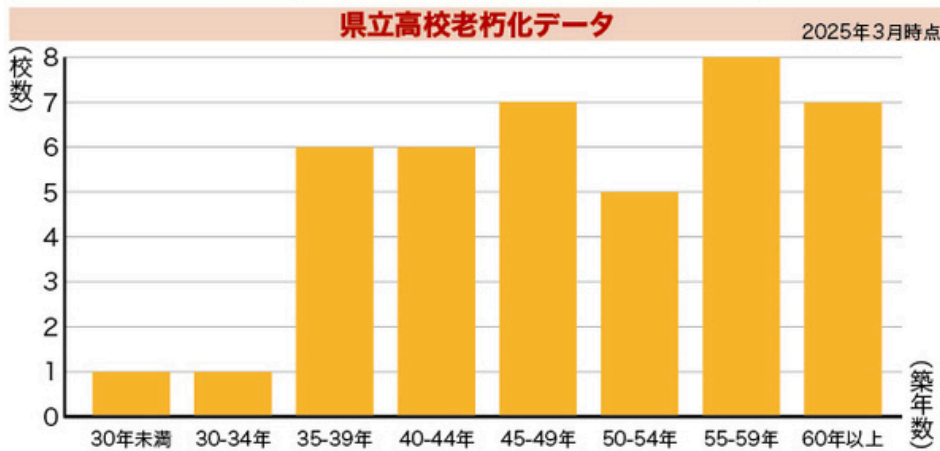
しかし、その陰で子どもたちが日々学ぶ県立高校の環境整備が後回しになっています。

空調、トイレ、校舎、体育館、特別教室など、安心して学べる環境づくりが早急に必要です。

「私立は無償化、県立は老朽化」では、安心して教育を受ける機会を失うことになってしまいます。

本来、県立高校こそが、「県がまず取り組むべき」、地域の教育の基盤であり、地域を守るための基盤です。

私たち「自由民主党・無所属の会」は、現場の声を力に、県立高校の環境整備を最優先課題として求めています。無償化はゴール



ではなく、教育を次のステージへ進めるための再スタートです。

会派の勉強会では大学教授をお招きし、先行地域である大阪府の高校無償化制度を学びました。

その中で、**無償化だけに目を奪われてしまうと、「公教育とは何か」という本質が置き去りになります。**

**その結果、「すべての子どもたちを守る」というセーフティーネットが機能しなくなり、かえって問題が深刻化することもあります。**

- 生活が厳しく、学習支援が必要な生徒が増えています
- 高校そのものがなくなる**“空白地域”**もあります
- 学校と地域がつながる仕組みが不足しています

つまり、就学費は無料でも、**“学べる場所”や“機会”そのもの**が失われる可能性があります。

## 現在使用している老朽化した県立高校の施設



# 努力を裏切らない制度を ～突然の変更に、子どもたちの声を代弁～

県立高校入試における「内申点の扱い」が、ことし7月、突然変更されました。

これまで「**中学1年からの成績が反映される**」と説明されてきたものが、**一学期の成績が確定した後になって「3年生の成績のみ」とされた生徒がいます。**

これは、受験生と保護者にとって「不意打ち」であり、制度への信頼を損なう行為です。

なぜ、子どもたちのこれまでの努力の方向性を覆すような変更を、この最悪のタイミングで行ったのか。

そして、**なぜ将来を左右する重要な変更にもかかわらず、通例である「移行期間」を設けないと判断したのか。**

県教育委員会には、その場しのぎの説明ではなく、受験生と保護者が納得できる「明確な経緯」と「責任ある説明」が求められます。

私たち「自由民主党・無所属の会」は、子どもたちが安心して努力できる環境を守るため、現場の声を踏まえた制度運用の改善を強く求めています。

## 7月までのルール (現・中3生から適用)

1・2年 観点3(※)による 3段階評価      3年 5段階評定×2倍 = 144点満点  
※2観点3とは、「主体的に学習に取り組む態度」を3段階(A・B・Cなど)で評価したもの

## ことし7月、突然変更

調査書の「各教科の学習成績」の取扱いを以下のパターン①～④で定めます。

パターン1	標準的な調査書の学習成績の取扱い (合計144点満点)	パターン2	第3学年の点数をさらに2倍する (合計234点満点)
第1学年	観点3(※)3段階評価 × 9教科 = 27点満点	第1学年	27点満点
第2学年	観点3(※)3段階評価 × 9教科 = 27点満点	第2学年	27点満点
第3学年	5段階評定 × 9教科 × 2倍 = 90点満点	第3学年	90 × 2 = 180点満点
パターン3	第1、2学年の点数を2倍する(合計198点満点)	パターン4	第1、2学年の点数は調査書成績に加え、第3学年の点数をさらに2倍する(合計180点満点)
第1学年	27 × 2 = 54点満点	第1学年	調査書成績に加えない
第2学年	27 × 2 = 54点満点	第2学年	調査書成績に加えない
第3学年	90点満点	第3学年	90 × 2 = 180点満点

## 調査書点(内申点)の扱い変更に加え、「学力検査点」の比重も見直し

これまでどおり、学力検査は普通科で5教科・250点満点などの構成ですが、学校によってはこの得点に「倍率(重点化)」をかける方式を導入。

その結果、同じ内申点でも「本番の得点」が合否に与える影響がこれまでより大きくなる学校があります。  
 例)400点満点相当(倍率1.6)の学校では、学力検査の比重が高くなる。

さらに、一部の学校では「独自検査」「実技」「加重配点」などを組み合わせ、選抜方法が多様化しています。



こうした変更により、学校ごとに「内申点と当日点のバランス」が大きく異なるため、受験生や保護者にとってわかりにくくなっているのが現状です。